



市報

あまがさき

10

令和7(2025)
No.1715

特集
P2-5

人と動物が おも 想い合える 暮らしを



CHECK!

10月8日までに国勢調査に回答してください

☎ 1041568 問 国勢調査・統計担当 ☎ 6489-6150 ☎ 6489-6205

令和7(2025)年国勢調査は、日本に住むすべての人を対象に5年ごとに行われる重要な調査です。調査結果は人口や世帯構成、居住状態を明らかにし、各種行政サービスに利用されるだけでなく、国からの交付金の算定にも関わる重要な資料となります。10月8日までに回答してください。

電子版(抜粋版)も配信中!



15言語での表示・音声読み上げ
Multilingual(15 languages)

人と動物が 暮らしを 想い合える

ペットと暮らすと、
愛らしい仕草に癒やされたり、
驚かされたりする喜びや楽しさがあります。
そんな暮らしのために、飼い主にはどんなことが必要？
どんなことを知っておくべき？
ペットとの彩りある暮らしのために、一緒に考えてみましょう

☎ 1038631
☎ 市動物愛護センター
☎ 6434-2233
FAX 6434-2293

猫の飼い方のポイント

犬の飼い方のポイント

- 1 **飼育は必ず室内で**
近隣とのトラブルを防止だけでなく、猫の安全のためにも、必ず室内で飼育しましょう
- 2 **キャットタワーの設置などを**
猫には上下運動が必要です。キャットタワーを置いたり、家具を階段状に配置したりしましょう
- 3 **家の外に逃げないように対策を**
外へ逃げ出さないように、二重扉やストッパーを設置しましょう。また、ドアの開閉にも要注意です

- 1 **リードは短めに**
散歩では、犬の動きをコントロールしやすいようリードは1m以内にして短めに持ちましょう
- 2 **散歩時のトイレのマナーを守ろう**
できるだけ家でトイレを済ませましょう。外でしてしまう場合はペットシートで受けるのが便利です
- 3 **散歩は時間帯を考えて**
夏はアスファルトが高温になるとやけどをする可能性もあり、冬は霜焼けになることもあるので、天候に気を配りましょう

ご近所との交流にも

犬の1日の散歩時間

- 小型犬 約30分×1回
- 中・大型犬 約60分×2回

1回の散歩の時間は小型犬は20分～30分、中型犬や大型犬は60分前後が目安です。犬種や年齢によっては1日に2回程度の散歩が望ましい場合もあります。また、飼い主同士やご近所の皆さんとの交流の場にもなります。

長生きに
つながる!?



不妊手術の寿命延伸率 ※2

雌23%、雄18%長生きに
雌39%、雄62%長生きに

犬や猫に不妊手術をすると、予期せぬ妊娠を防ぐのはもちろんのこと、手術を受けなかった場合と比べて平均寿命が長くなり、会陰ヘルニアや乳がんなどの予防につながるといったメリットが研究によって明らかになっています。また、発情によるストレスもなくなります。

※2 一般社団法人Spay Vets Japan
<https://spayvetsjapan.org/research/22032901.html>から

ペットのためは、みんなのため

ペットとの暮らしには「生命を預かる」という大きな責任が伴います。ペットが健康に過ごせるよう、飼い主は正しい知識を得ることが大切です。ペットを正しく飼うことは私たち人にとっても、暮らしやすさや近隣の人たちと良好な関係を築くことにつながります。

増やさないことも愛情

猫の出産回数

1年間に2～3回

猫は非常に繁殖率が高く、1年間に2～3回出産することができ、1回に3～5頭の子猫が産まれます。雌猫は生後4カ月程度で出産できるようになり、その猫たちもどんどん出産すれば、不妊手術をしていない場合、1年間で合計約80頭まで増えていきます。



飼育頭数 ※1

約680万頭
約920万頭

犬や猫以外のペットも含むと、もっと多くの動物と人が共に暮らしています。

愛される動物は
全国でこんなに

動物たちは何歳まで
生きるの?

平均寿命 ※1

14.90歳
15.92歳

犬や猫の寿命は体の大きさや種類によって変わり、個体差もあります。自分や家族の年齢や、今後の生活環境の変化を考慮し、動物たちが命を終えるまで責任を持って飼育できるようにしておくことが大切です。

食費や医療費などの平均費用 ※1

1万5270円
8930円

1カ月
当たり

ペットと暮らすには、それぞれに合わせたペットフードやおもちゃなど、飼育に必要なさまざまなものをそろえる必要があります。また、ペットも病気やけがをするので、1年間に複数回病院に行くことも。ペットが健康に暮らしていくために、大切な支出です。

健康を守るために

※1 一般社団法人ペットフード協会調べ
(令和6(2024)年)

いろいろな取り組みで動物とのより良い関係を応援しています！

本市の動物愛護センターでは、適正飼養の指導や普及啓発、収容動物の譲渡、ボランティア活動に対する助成などの業務を行っています

ID 1000473 園市動物愛護センター 〒661-0047西昆陽4丁目1-1
☎6434-2233 FAX 6434-2293



譲渡会開催支援助成金

ID 1029456

兵庫県内と大阪府内で開催される犬・猫の譲渡会開催にかかる会場費などの費用の一部を助成します。譲渡会開催日から1年以内に所定の用紙などを直接市動物愛護センターへ。予算額に達し次第終了します。

マイクロチップ装着・登録費用の助成金

ID 1041694

10月1日から、飼い犬・飼い猫のマイクロチップ装着・登録にかかる費用の一部を助成します。上限額は1頭当たり2000円(1世帯当たり2頭まで)。10月1日以降に動物病院でマイクロチップを装着し、マイクロチップ情報登録サイトで登録後、来年3月31日までに所定の用紙などを郵送か直接市動物愛護センターへ。予算額に達し次第終了します。

動物愛護基金

ID 1003413

パスラッピングによる啓発活動や野良猫の不妊手術費用の助成、ペットの適正飼養の普及啓発などの取り組みを進めるために、基金への寄付を受け付けています。ふるさと納税での申し込みも可能です。

正しい飼養の啓発や野良猫の繁殖抑制、災害時のペット同行避難の推進など、他都市に類を見ないほどの幅広い取り組みを進めています。

動物愛護の取り組みは、市民の皆さんのご協力無くして推進していくことはできません。

人も動物も安心して暮らせるまちづくりに向けて、命を尊重し生活環境に配慮しながら責任を持って動物と向き合っていきましょう。

尼崎市長 松本 真



野良猫不妊手術助成金

ID 1009579



野良猫の不妊手術にかかる費用の一部を助成します。上限額は手術1件当たり雌猫1万3000円・雄猫9000円。助成を受けるには説明会への出席が必要です。同会初参加者にはあま咲きコイン500ポイントを付与します。

飼い犬の登録・狂犬病予防注射

ID 1003419

生後91日以上の子犬を飼っている場合、本市への登録が必要です。また、年に1回狂犬病予防注射を受けることが義務付けられています。



マナー啓発の看板・シールの配布

ID 1026111

犬のふんの後始末のマナーの啓発のための看板やシールを配布しています。使用できる場所には要件があります。

思いっきり遊ぼう！

西武庫公園にドッグランを試験設置 ID 1041661
園公園計画・21世紀の森担当 ☎6489-6530 FAX 6488-8883



災害対策に活用を！ ペット健康防災手帳

ID 1003421



各生涯学習プラザや市内の委託動物病院で配布しています

講師は荻野さん わん！だふるペット 防災講座&体験イベント

ID 1041772

11月1日(土)午後1時～3時、中央北生涯学習プラザで、講座と体験イベントを。☎犬と飼い主 15組 ☎10月8日～31日に電話か直接中央地域課 ☎6482-1760 FAX 6489-9300。

野良猫をこれ以上増やさないことが大切です

家や庭にふんや尿をされたり、鳴き声がうるさかったり、物を壊されたりと、地域でさまざまな野良猫に関するトラブルが起こっています。また、猫自身も交通事故に遭うなど常に危険な状況にさらされています。人も猫も幸せに生きられるように、野良猫をこれ以上増やさないようにしましょう。

知っていますか？ 人にも猫にもやさしいTNR活動

Trap **トラップ** 捕獲する

Neuter **ニューター** 不妊手術をする

Return **リターン** 元に戻す

TNRとは、野良猫を捕獲し、不妊手術を行い、耳の先端をカットをしてから元の場所に戻すことをいいます。野良猫を増やさないようにすることで、さまざまなトラブルを防ぐとともに、今以上に不幸な命を増やさないために、この活動を継続することが大切です。

本市ではTNR活動に積極的に取り組んでいます！

野良猫対策活動講習会

907人の市民が受講

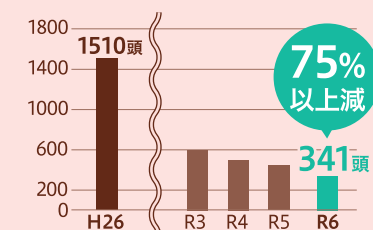
定期的に野良猫の問題やTNR活動に関する説明会を実施しています。



猫の路上死数

75%以上減少

野良猫が減ったかどうかの指標の一つである市内の路上死数は、10年間で75%以上減少しています。



助成金で不妊手術を実施した猫

6年間で3674頭

市内で捕獲した野良猫の不妊手術費用の助成を行っており(5ページ参照)、6年間で3674頭の不妊手術を行いました。



TNRの目印！
サクラカット

Interview

ペットにも 防災力を



尼崎市動物愛護推進員
一般社団法人 わんにゃん防災
荻野直美さん

日ごろの備えが
肝心です！

東日本大震災で、一時的にペットを置いて避難した飼い主が自宅に戻れなくなりペットが命を失う事例が相次いだことや、別の水害時に「ペットがいるから」と飼い主が避難をためらい一緒に亡くなったケースがあったことから、ペット防災の重要性に対する意識が高まりました。動物の命を守ることは、人の命を守ることに繋がります。

尼崎ではすべての避難所でペットとの同行避難が可能ですが、人も動物もストレスなく過ごすためには、ペットの日常的なトレーニングが大切です。家の外へ連れ出すなどして、普段とは違う状況でもケージ内で落ち着いていられる・排せつができるようにしておきましょう。また、自分や家族が被災して世話ができない事態も想定して、慣れ親しんでいる人以外が近付いてもペットが怖がらずにいられると安心です。ワクチン接種や健康管理も含めて、日ごろから少しずつ準備することがペットの防災力を高めていきます。

動物は人に癒やしや安心を与える存在であり、家族の一員として守るべき命ですが、避難所にはペットを飼っていない人もたくさんいます。互いの立場を尊重し、マナーを守って過ごすことが、飼い主としての責任であると認識しておきましょう。